

「野洲市 人権問題・男女共同参画に関する 市民意識調査」 (2019年10月実施)の結果概要

➤ 調査の概要

1. 調査目的

野洲市では2016年3月に「第3次野洲市人権施策基本計画」を策定し、年齢、性別、障がい、国籍、出自などに関わらず、お互いの人権を尊重し、支え合ってくらす共生社会をめざして人権教育・啓発活動に取り組んできました。

また、性別に関係なくひとが持てる能力を十分に発揮し、互いの人権を尊重し合い、社会のあらゆる分野へ公平に参画し、ともに責任を担える男女共同参画社会を実現するため、2016年3月に「第3次野洲市男女共同参画行動計画」を策定して取り組みを進めているところです。

このアンケートは、第4次計画の策定に向け、意識や実態、課題等を把握し、今後の取り組みの重要な基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査方法

(1) 調査対象地域	野洲市全域
(2) 調査対象者	野洲市の住民基本台帳から20歳以上の男女を無作為抽出
(3) 標本数	1,000人（女性500人、男性500人）
(4) 調査方法	郵送による自記式アンケート調査
(5) 調査期間	令和元年10月16日～11月22日
(6) 実施機関	野洲市総務部人権施策推進課

3. 回収結果

(1) 配布数	1,000通
(2) 有効回収数	355通
(3) 有効回収率	35.5%

4. 調査データの表示

- (1) 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示しています。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の占める数値が一致しないことがあります。
- (2) 比率は、特に断りがない限り、すべて各設問の無回答、不明を含む集計対象総数（枝設問では、設問該当対象者数）に対して百分率(%)で表しています。
- (3) 階層集計の百分率(%)は、すべて各階層毎の該当対象者数を100としています。
- (4) 性別、年齢別、性別・年齢別と全体との比較や各階層間での比較で特徴的な傾向が見られた場合は、グラフ又は文章で表現しています。
- (5) 性別又は年齢が不明の場合や無回答の場合は、階層別の集計には含んでいません。

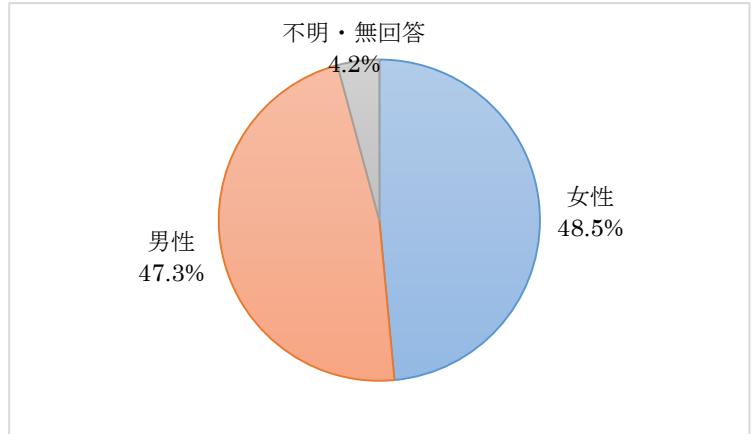
5. 標本構成（回答者プロフィール）

(1) 性別構成

表【性別構成】

	実数(人)	構成比
女性	172	48.5%
男性	168	47.3%
不明・無回答	15	4.2%
合計	355	100.0%

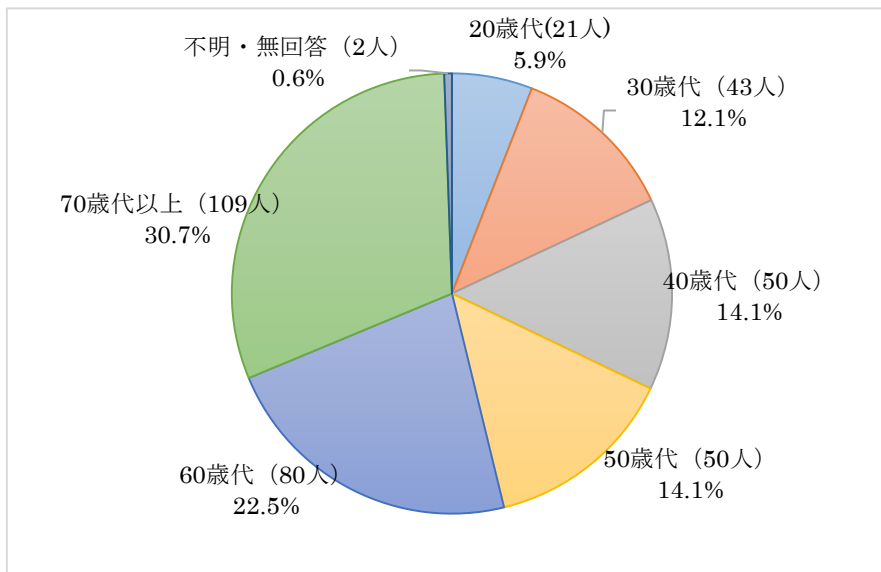
図【性別構成】



◆回答者における性別構成をみると、女性が48.5%（172人）、男性が47.3%（168人）、不明・無回答が4.2%（15人）となっており、回答者はやや女性の比率が多くなっている。

(2) 年齢別構成

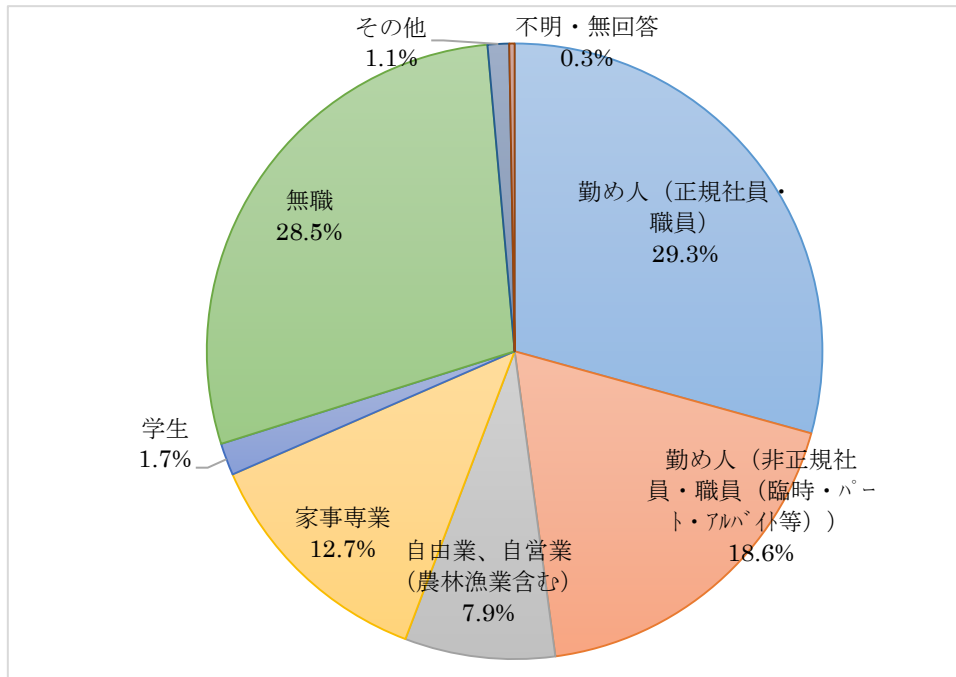
図【年代別構成】



◆回答者における年齢別構成をみると、70歳代以上が30.7%と最も多く、次いで60歳代が22.5%となっている。30～50歳代は12～14%前後となっているが、20歳代は5.9%と低くなっている。

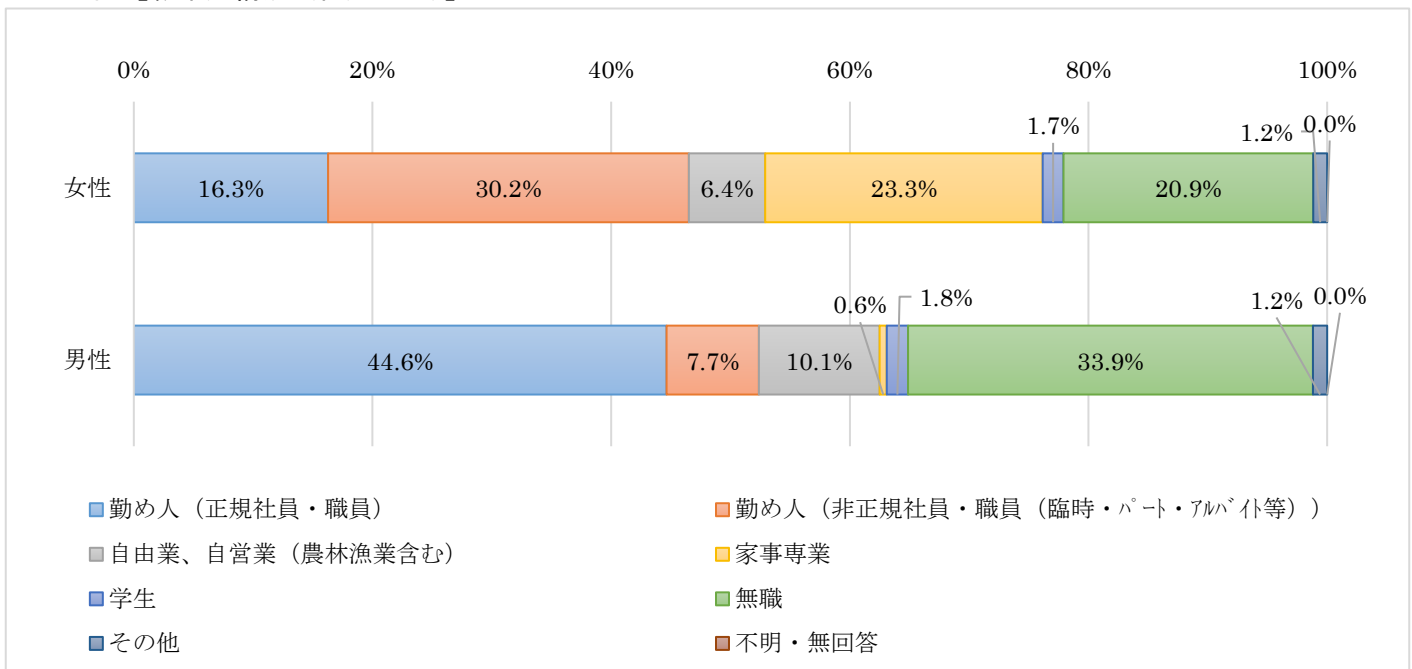
(3) 職業別構成

図【職業別構成】



◆回答者の職業別構成は、「勤め人（正規社員・職員）」が29.3%で最も多く、次いで「無職」が28.5%、「勤め人（非正規社員・職員（臨時・パート・アルバイト等）」が18.6%、「家事専業」が12.7%と続いている。

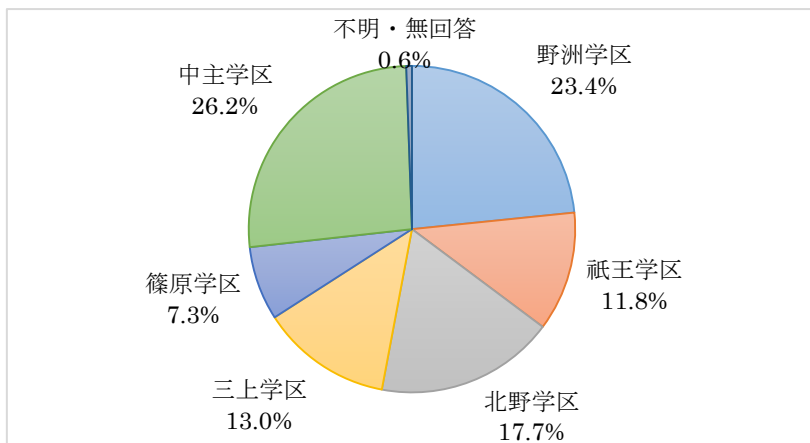
図【職業別構成（性別ごと）】



◆性別（不明・無回答を除く）でみると、女性では「勤め人（非正規社員・職員（臨時・パート・アルバイト等）」が30.2%と最も多く、次いで「家事専業」が23.3%となっている。男性では「勤め人（正規社員・職員）」が44.6%と最も多く、次いで「無職」が33.9%となっている。

(4) 学区別構成

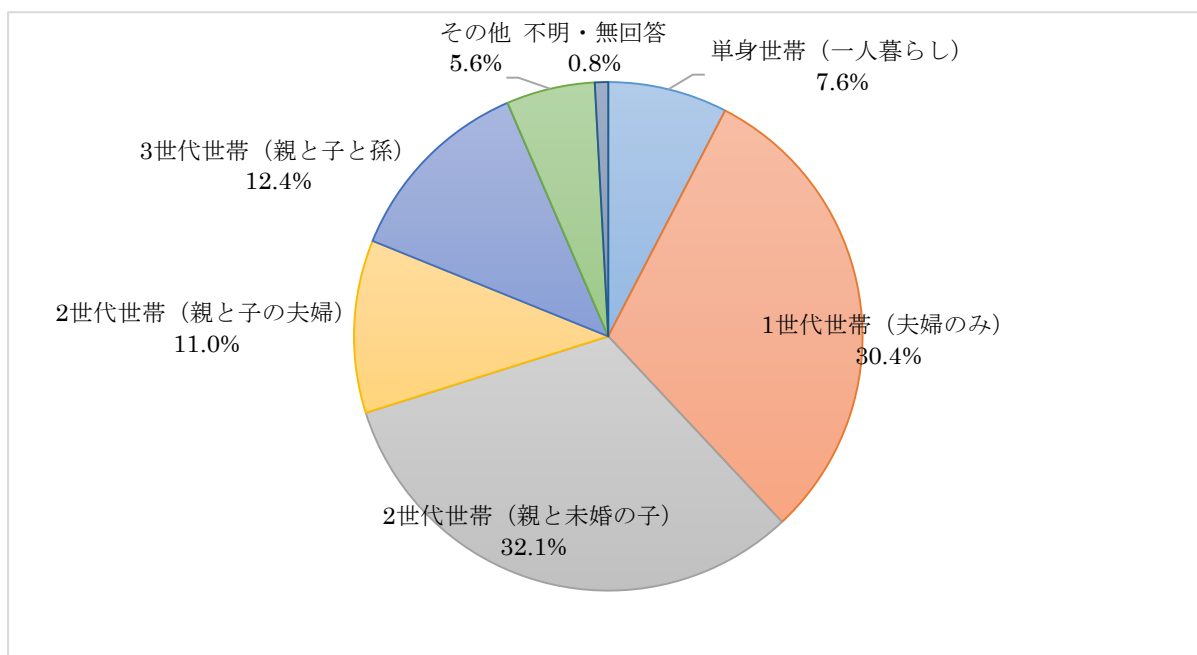
図【学区別構成】



◆回答者における学区別構成をみると、中主学区が26.2%と最も多く、次いで、野洲学区23.4%となっている。また、最も少なかったのは篠原学区で7.3%となっている。

(5) 家族構成

図【家族構成】



◆回答者における家族構成をみると、「2世代世帯（親と未婚の子）」が32.1%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が30.4%、「3世代世帯（親と子と孫）」が12.4%となっている。